

日本の後発地帯におけるまちづくり、むら起こしの意味

<以下のいずれの地域も、高度成長に背を向けた行き方をしてきたことで共通する>

いずれも中央からの距離が遠く、交通の便は悪く、高度成長に乗ろうとしても乗りようがない地域であった。しかし、こうしたハンディは、これらのまちにとって独自の地域起こしを行うための“ばね”になっていったといえる。

池田町

- ・ 1957年 丸谷金保町長当選（1957年3月27日）
- ・ 1961年～ ぶどうづくりにとりくむ
- 1964年4月 池田町ブドウ・ブドウ酒研究所発足
- 1974年7月 ワイン城竣工

沢内村

- ・ 深沢晟雄の生涯（1905年～1965年）
- 深沢村政時代は、1957年～1965年1月（食道ガンで死去）までと長くはなかった。しかし、この間1960年代初めには、すでに沢内村の生命行政の骨格が展開されていた

大山町

- ・ 1954年 矢幡治美が農協組合長に就任、1987年まで通算33年の在職
- ・ 1961年 第1次NPC運動のとりくみを開始した
- ・ 1955年から1971年まで、矢幡治美は大山町長を務めた

湯布院町

- ・ 1961年頃 湯布院においては、「別府温泉を真似るな」というスローガンで、滞在型の保養地を志向する独自のまちづくりのコンセプトをつくり上げた。